

令和4年度 コミュニティから「市政へのご提言」

広島 コミュニティ

提言項目①	島のガソリンスタンドの運営について
提言理由・内容	<p>過疎地や離島では、ガソリンスタンドの閉鎖が懸念されており、広島地区においても、現在、営業するガソリンスタンドは1店舗のみで、人口減少による需要の縮小や経営者の高齢化がスタンドの経営をさらに深刻化させている。</p> <p>これに加えて、施設の維持管理や老朽化等の問題が事業の継承並びに経営移譲を妨げる要因となっている。</p> <p>ただ、島の現状としては、公共交通機関が十分ではなく、車やバイクでの移動、また、冬場には暖房器具等が欠かせないことから、ガソリンをはじめ、軽油や灯油は暮らしの必需品であり、今後もガソリンスタンドは重要なインフラの一つであります。</p> <p>こうした状況を鑑み、島唯一のガソリンスタンドが行き詰まる前に、喫緊の課題として、スタンドの存続・継続に向けた対応策をご検討いただけますようお願いいたします。</p>
回答	<p>島民の皆様が島で安心した生活を維持するために、また、離島振興など島の将来において、ガソリンスタンドは欠かせない存在です。現在、離島をはじめとする過疎地域では、ガソリンスタンドの不足が深刻化しており、本市においても、早急な対応が求められる課題の一つと受け止めております。</p> <p>昨年12月に、広島で唯一のガソリンスタンドの経営者から、年齢的にも経営的にも限界が近づいている旨の相談を受け、その後、自治会長会において現状をお伝えするなかで、事業者や行政だけではなく、島全体の課題としての認識を共有させていただきました。</p> <p>今後は自治会役員をはじめ、行政や石油組合、地元NPOなど関係団体にも加わっていただき、ガソリンスタンドの存続に向けた協議を重ねて参りたいと考えます。</p> <p>また、他市町の先進事例や国の補助制度等を参考にしながら、広島地区の状況に応じた最善の対策をできる限り早い段階で具体化してまいりたいと考えますので、島民の皆様におかれましても、ご理解・ご協力のほどよろしくようお願いいたします。</p>
提言項目②	イノシシ被害への対策のための実態調査等について

<p>提言理由・内容</p>	<p>ここ数年、イノシシによる農作物や建物、道路等への被害が増加しており、島民の生活に大きな影響を与えています。</p> <p>地元猟友会等の尽力により、見回りや捕獲が継続して行われており、捕獲頭数も年々増加しています。</p> <p>しかし、島には、捕獲数をはるかに上回る数のイノシシが生息していると推測され、より効果的に捕獲等を進める上で、島内にどれだけのイノシシがいて、どの辺りに多く分布しているかなど、その実態を把握することが重要とされるが、地元猟友会だけでは、イノシシの生息状況を調査することは非常に困難であると考えます。</p> <p>同様にイノシシ被害に苦慮する他の自治体では、大学と連携し調査することで、通常よりも比較的安価に調査が可能になるとの情報もあることから、そうした事例を参考に、市主導による実態調査の検討をお願いいたします。</p> <p>また、現在、イノシシ等の防獣柵設置の補助制度を活用させていただいていますが、設置者の高齢化や地理的な要因から、設置希望はあるものの実際には設置が困難という意見を聞きます。</p> <p>そこで、防獣柵と比べると効果は限定的かもしれませんが、他県ではオオカミ等の猛獣の糞尿を用いてイノシシの侵入を防いでいるとの情報もありますことから、柵の設置に加え、猛獣の糞尿等による対策についても補助の対象にできないか、ご検討をお願いいたします。</p>
<p>回答</p>	<p>広島コミュニティの方々には、日頃からイノシシ捕獲につきましてご協力をいただき感謝しております。</p> <p>さて、イノシシの実態調査につきましては、捕獲場所のデータ収集など市も猟友会等と連携して調査を進めてまいりますが、イノシシはなわばり意識も高くなく、一定の場所に定着しない習性もあることから、正確な頭数等の把握には至っておりません。ご提案にも有りました大学や各研究機関との連携などによる実態調査につきまして、先進地事例を参考に検討を進めてまいります。</p> <p>また、オオカミ等の猛獣の糞尿を使用する等の忌避資材につきまして、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の研究において、イノシシが本能的にオオカミ等の猛獣の糞尿を忌避する可能性はきわめて低いとの結果が示されるなど、効果は一時的であり、十分な忌避効果が得られないとの検証結果もありますことから、忌避資材につきましては、最新の事例などを参考に十分な忌避効果が得られるものについて調査検討してまいります。</p>